

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

| | |
|---|--|
| NITS カフェ報告書 ※機構記入欄 | 実施機関名・連携機関名 実施機関：常葉大学大学院初等教育高度実践研究科 |
| No. : - | セミナー名：【NITS カフェ in 常葉】 ・学校の働き方改革を考える (9月13日) ・部活動を通しての人間形成とは (12月9日) |
| テーマ：第1回「学校の働き方を考える」・第2回「部活動を通しての人間形成とは」 第1回は、国の施策や動向等の理解を深めるとともに、学校や教師個々が働き方の現状を改善していくために、今、具体的にできることは何か、これから学校がどのように変わっていくのかを率直に語り合う場とした。第2回は、その働き方改革において、特に中学校で教師の時間外勤務の最も大きな要因となっている部活動について、その運営改善ではなく、人間形成に焦点を当てて考える場とした。 | |
| 内容： 第1回は本教職大学院と静岡市教頭会研究推進委員会との連携事業とし、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会からの参加者も含め70名を超える参加者があった。 ①講演「学校における働き方改革の推進」文部科学省初中局財務課専門職 中村 芳宏 氏 ②グループ別協議：院生と教頭、教育委員会等による混成グループとし、「円た君」と呼ばれる円形ホワイトボードや付箋を使いながら意見交換をした。教頭からは各校における具体的な実践事例が紹介された。最後に「これから学校でしたいこと」「できそうなこと」をグループでまとめ提示した。 ③各グループからの報告と講評 第2回は、参加者を広く公募し、院生の他、教育委員会、小中高の管理職と教員、PTAの代表者、学部生等、50名を超える参加者があった。 ①基調提案と対談：星野明宏氏（静岡聖光学院中・高等学校校長、元ラグビーU17・18代表監督）、八木道政氏（高校野球解説者、元高校野球監督） ②グループ別協議：院生と現場教員、外部参加者等の混成グループとし、二人の講師の提言への感想や自身の部活動経験などを、コーヒーを飲みながらざっくばらんに話し合った。 ③講師と参加者によるフリートーク：参加者からの質問や意見に講師が答える形で進めた。「褒めること」と「認めること」の違い、「自主性」と「主体性」との関係など、熱心な議論が行われた。 | |
| 成果： ①事後のアンケート結果は、第1回が「大変有意義だった」71.4%、「おおむね有意義だった」28.6% 第2回が、「とてもよかった」87%、「よかった」13%と、高評価を得た。 ②NITS カフェの趣旨である教育課題について参加型ワークショップにより語り合うことができた。特に、立場の違う初対面の参加者同士がコーヒーを片手に肩の力を抜いて率直に語り合えたことがよかった。 ③敢えて「働き方改革」と「部活動」という対峙するようなテーマを設けたが、それぞれの現状と課題について対比しながら考えることを通して、教育の本質や意義に言及することができた。 | |
| アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。 ・NITS カフェを2回の実施に分け、「働き方改革」と「部活動」という対峙するようなテーマを設定したこと ・常葉大学センターの教室環境を生かし、第1回は教室の背面が全面ホワイトボードであることを活用しグループ協議の報告を全面掲示したこと。第2回は、3台のプロジェクターを同時使用し、本会の趣旨と二人の講師からの提言のキーワードをわかりやすく提示できたこと ・第1回は静岡市教頭会研究推進委員会との連携事業とし、教職大学院と教頭会との相互理解につなげたこと | |

【第1回】 講演に引き続きグループディスカッションを行いました。



グループディスカッション①



講師の様子



グループディスカッション②



全体の様子

【第2回】 お2人の講師による対談形式で提言をいただき講師とざっくばらんに語り合いました。

講師との語り



講師の様子



全体の様子

